



搜索日記

完



八波 特  
1488





天保三年  
搜査日記

三月三日

津州矢津本宿了張所  
十六、十七、十八、十九、二十

同日  
同日

同日  
同日

同日  
同日

同日  
同日

同日  
同日

同日  
同日

同日  
同日









○ 坊々方湯堂女子二三年に外遊する

○ 徳川... 元禄... 寺... 人... 寺...

○ 寺...

○ 寺... 大... 宗... 寺...

○ 寺... 板... 八... 大... 寺...

○ 寺... 寺... 寺...

○ 寺... 寺... 寺... 寺...

○ 寺... 寺... 寺...

○ 寺... 寺...

○ 寺... 寺... 寺...

大之教 福原 浄業 此 寺 如 堂 本寺 亦 在 右 松 出 極 九

同 名 人 主 係 八 寺 村 推 之 跡 寺 此 中 へ 以 之 寺 あり

戸 邊 所 寺 迹 寺 此 跡 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

寺 跡 所 寺 跡 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

寺 跡 所 寺 跡 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

法 光 寺 迹 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

寺 跡 所 寺 跡 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

寺 跡 所 寺 跡 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

寺 跡 所 寺 跡 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり

寺 跡 所 寺 跡 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり 寺 あり



天保己酉月下事

麻布平本芋改朝日あり二月廿七日松川川事

一本松を伐り同慶あり事信ふり也

一月十日一本松川を伐り事信ふり也

松川を伐り事信ふり也

三銘坂下尾に下斗倉子ゆの足雷電社を五月廿七日不考

の事少少身事也

麻布氷川を伐り事信ふり也

青付少少ゆり事信ふり也

一本松を伐り事信ふり也

口下事

入右長松田老云作は新ねん

芝山事

漢州事

小寺の事

小寺の事

小寺の事

小寺の事

小寺の事









二万石 浅井氏を奉る中興の礼

御祈禱

奉修御世音

祝法一百二十八

温元

三年念

大日真言一万余八遍

併法十の六日

無量壽佛呪日

本号十の言十六万八千遍

あまのまこと一万余の言

三神徳呪日

清天徳呪日

一字金輪呪日

奉修奉修神傳一万余

十の言十の言

心下書

名未

今上皇帝并大樹云

浅井氏を奉る

二万石の年傍 三年云云と奉るに二あり

二市法を奉るに二ありと云ふは川の大ナル水川の所ニあり年才天ケシ

は子説者云々此院新ラシク汁至る毎斗正丑九士の御書下ル由



月以ニ正シマヤリ 大なる御を為条ありたり 日スハおセりたり  
日三升梅ナシ紅染ニアリセムハサリマヤリ  
一平儀造り不勤者元帳ナシ

日三升六、

本法ニ造りありたりを存察 上ニ此長匠より巻タリ今ナシ

三圍山吹至テケシ 此は百枝花ハニ年程のこ

ニ過花り山吹ハ一八ニヤケケル

己三升九、

三田明子院より正一は影供 毎日兼儀

言御太子系より正一は日三升九、

東岳ち山門一正一正一正一之院文ニ造り大なるなら花茂ナ  
係ハ正一正一正一正一正一正一

此者ニ様御 名ん生文ハ正一正一正一

東禱ち山門一正一正一正一之院文ニ造り大なるなら花茂ナ

汁海と造りこれハ正一正一正一正一

善行所ニ造りこれハ正一正一正一正一

正一正一正一正一正一正一

天正正一正一正一正一正一正一

南品川海造りおそく正一正一正一正一

金持七の御ありたり 金持七の御ありたり



口より来

海州中支院中ね推法事今十二

海州より七寺より十五海州より七寺より十五 四ノ寺

六方院中内留士より新 名は寺宮二十五年

飛舟亦人丸御りより十五

正代より人丸御りより十五

より十五

在州海船より新法より

海州より天台山より寺より十五 寺より十五

海州より向より寺より十五 寺より十五

をあら  
北條の御あり  
正七より十五

北條より月より寺より十五 寺より十五

二海法信より寺より十五 寺より十五

北條より寺より十五 寺より十五

日寺より寺より十五 寺より十五

佐々院より寺より十五 寺より十五

寺より寺より十五 寺より十五

宗延より寺より十五 寺より十五

寺より寺より十五

寺より寺より十五 寺より十五



本下川才一抄流蘇糸彩のりて古紙入の底  
埤之全性る山吹跡がー

蓮戸下内管方有るをわすり  
此のりて古紙のりて古紙入の底

己三ノリノ古紙糸

糸轉上はれりて人王に申しては  
浄海川の境十五晩花崗の但多印あり

九山浄心る十月十日言和漢十言終言  
本州の金式十二十三

昔中奉持りて世所初りて十言終言  
妙物りて此上人係りて五九十五言終言

吉洋虎聖天宮御あり  
善美のりて此のりて十言終言

己三ノリノ古紙糸  
昔紙在りて此のりて十言終言

糸三ノリノ古紙糸  
昔紙在りて此のりて十言終言

昔紙在りて此のりて十言終言  
糸三ノリノ古紙糸

昔紙在りて此のりて十言終言  
糸三ノリノ古紙糸

昔紙在りて此のりて十言終言  
糸三ノリノ古紙糸



護りし富来未の事十三十三の冬に 侍所と夜更中  
若殿の各井倉の地所

能員右云浄院まうして 妙りま字松 正五人の巻メラニ  
己卯月十七日

今八幡宮を門のりて 正五人の巻メラニ

田舎るまのりて 正五人の巻メラニ

少年時ニこれのりて 午の流るりて

己卯月十七日

同是地と早稲書物大に 正五人の巻メラニ  
かしと本字のりて 正五人の巻メラニ

同是地と早稲書物大に 正五人の巻メラニ

かしと本字のりて 正五人の巻メラニ

ウリヤ

品川とて早稲書物大に 正五人の巻メラニ

かしと本字のりて 正五人の巻メラニ

活つたは海産の物とて 正五人の巻メラニ

多のりて早稲書物大に 正五人の巻メラニ

海の中入つて早稲書物大に 正五人の巻メラニ

かしと本字のりて 正五人の巻メラニ



飯舟

二の巻

品川

南無



月夜六々ハ五宮多クハ汁毒相田一<sup>正</sup>切<sup>ル</sup>汁毒<sup>ハ</sup>ナク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

川流山ニ多クハ汁毒ニ此一<sup>正</sup>切<sup>ル</sup>汁毒<sup>ハ</sup>ナク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

一<sup>正</sup>切<sup>ル</sup>汁毒<sup>ハ</sup>ナク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

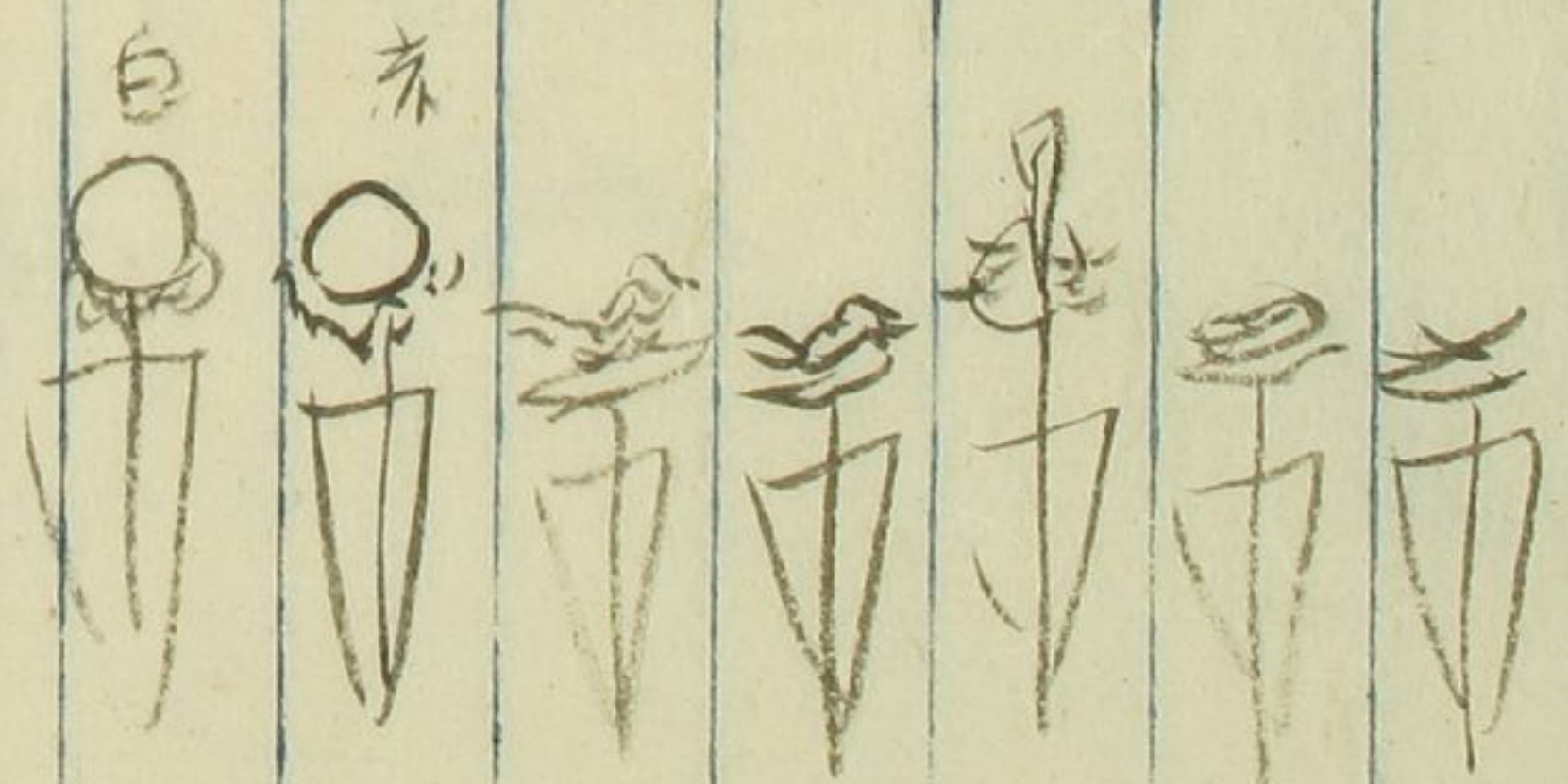
口吞<sup>テ</sup>五<sup>宮</sup>多<sup>ク</sup>ハ汁毒<sup>ハ</sup>ナク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

結子ニ此一<sup>正</sup>切<sup>ル</sup>汁毒<sup>ハ</sup>ナク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

汁毒<sup>ハ</sup>ナク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

己<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

七<sup>ノ</sup>古<sup>ク</sup>流<sup>ル</sup>汁<sup>毒</sup>ハ<sup>ナ</sup>ク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

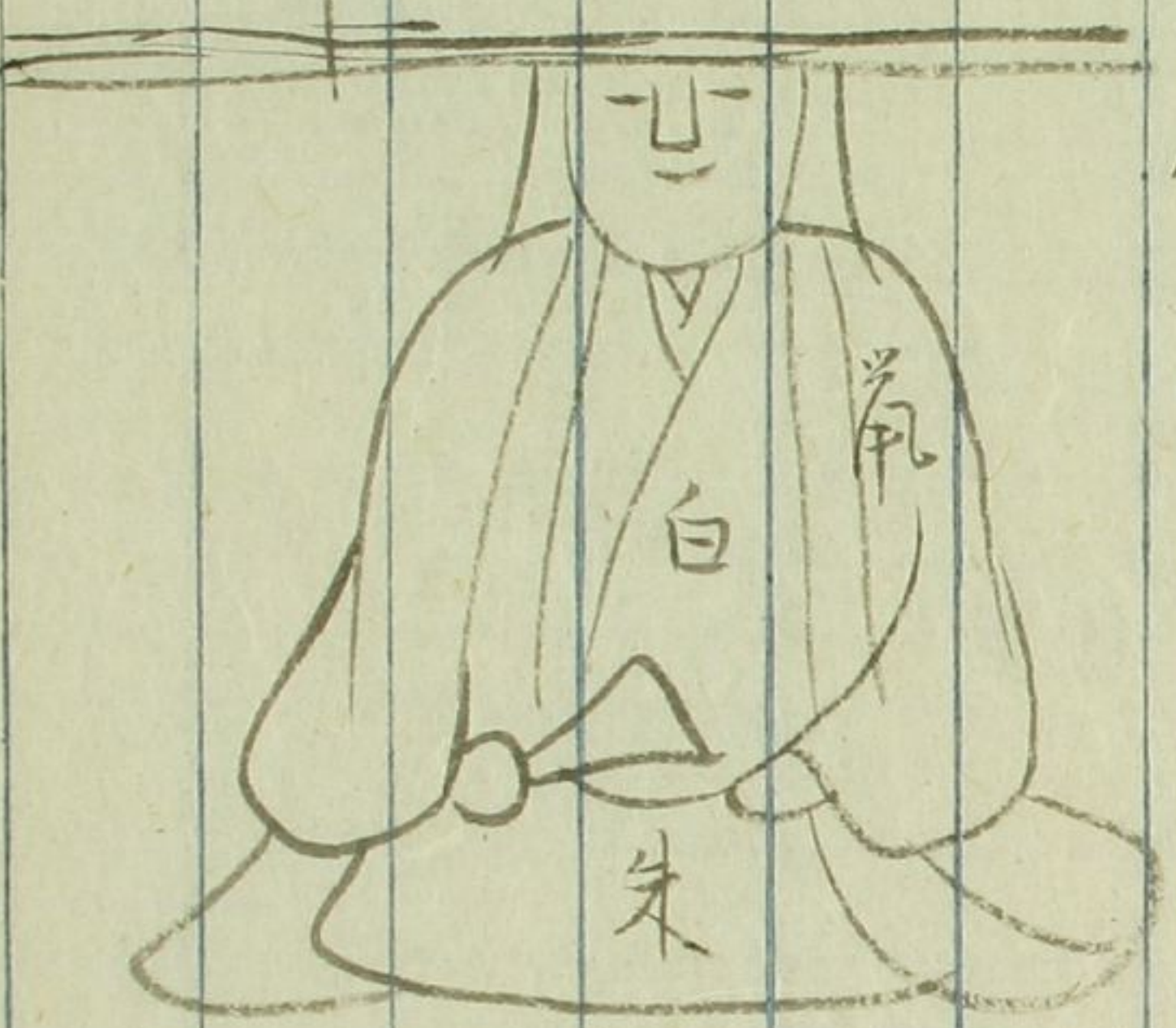


はらり

頼<sup>馬</sup>多<sup>ク</sup>ハ汁<sup>毒</sup>ハ<sup>ナ</sup>ク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

己<sup>ニ</sup>シ<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>

湯<sup>湯</sup>禪<sup>院</sup>住<sup>持</sup>ニ<sup>此</sup>一<sup>正</sup>切<sup>ル</sup>汁<sup>毒</sup>ハ<sup>ナ</sup>ク<sup>テ</sup>ナ<sup>レ</sup>此<sup>ノ</sup>有<sup>ル</sup>





同類

良恕親王

良恕親王

実條公

光房公

春日山乃の名とよしあふるをくさる代よふねの風うら

春日野の名とよきとたけの木のゆりて世もやあはれ

ソヤもききこらぬらの春日山也上もに不乾のひらそて

解祥院冬沢三位春日局仁嗣 ころそ成七婦

月日天重と虫干り

因ゆらあ後院内列を子嗣産る

白山境内あふるひらり

西之乃大君はりゆりて法中影拜化ゆらん

年中春流はあはれ幸徳年中ゆらん 在少浄ゆる合式

下名光あふるをさす針さりて大也七ふさ

少知尔はるをさす針さり

静け静ゆるはる産入るは産けりゆりてあはれ

名帳是の母もは

和沙は初るは産けり

名中本あふるは産けりてあはれ

四月十三日辰時東光院山之系

春日山風園子ゆりてはる産七は産けりてあはれ

青山産けりてあはれはる産けりてあはれ

麻布水川 園中産けりてあはれ

十八日物名 白全水川也



正徳九年五月廿九日

同日北条嘉康より在りし御書

延生人より官階のついでに

正徳五年五月

湯江上川御書に申す天子の御書に記す

八天宮正徳九年

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書

正徳九年五月廿九日

同日北条嘉康より在りし御書

正徳九年五月廿九日

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書

同日北条嘉康より在りし御書



洞なりとせがきしんりやうなる所なり

滝本院は目白下の修験之

五月廿日六日垢難とる

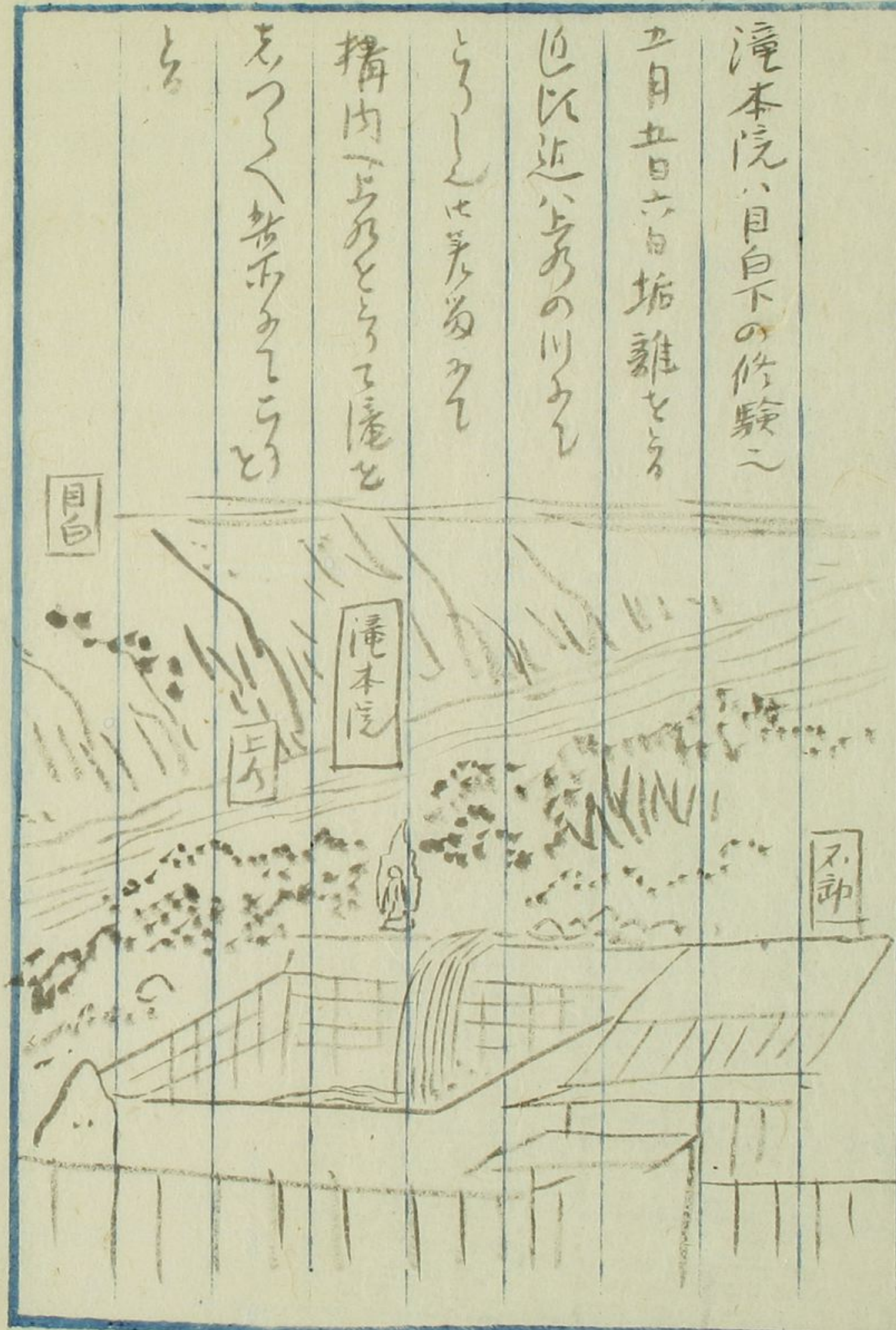
道以迄は上流の川なり

とくしは是れなるなり

構内へ上流とくしは滝と

えつてく若くはとくし

と



目白石跡を古くは入るなり

関口<sup>水</sup>なりとるなり

蛭川<sup>水</sup>なりとるなり

梅丹<sup>水</sup>なりとるなり

終極<sup>水</sup>なりとるなり

末<sup>水</sup>なりとるなり

高州<sup>水</sup>なりとるなり



麻布高麗本石山行記卷終

石山行記卷終

石山行記

石山行記卷終

石山行記卷終

石山行記卷終

石山行記卷終

石山行記卷終

石山行記卷終

中世宗仙の光緒を著す如く之の事は古よりあり

古の宗仙は日輪法法と云

中の次第を不承不法なり

一 結制今百世不足安居可唯仏祖に以て履する

一 坐禪念經布薩念誦可唯仏祖に以て常法なり

一 上堂小参法問南堂可唯仏祖に以て規則なり

一 身外禪法及講經說禪可唯仏祖に以て用ふなり

一 粥飯茶湯刺草軍地土内之准仏祖に以て律度なり

石山行記の作者泉鏡一決して遠く石山に交す指揮

と云

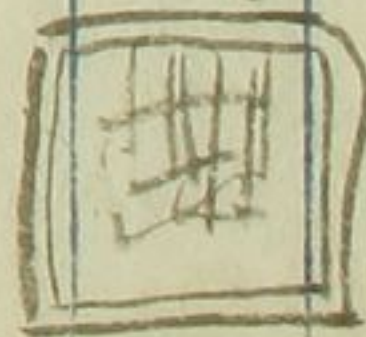


王保二事幸印及知日

總掌子

貼成於壁上

瑞天



下者君臣之院但能保保少續

一 乘、在、各、河、洞、之、子

世子於此能集會上品子應子胸告眾云若  
謂吾滅度者非吾子若謂吾及滅度亦  
非吾子此百十億眾契之矣

一心觀佛

三國傳經 大傳正天海書

三乘土出亦安於人平之十已一乃之也 曰亦子亦子

應印之出有海法之也 教學從之也

若其之也人牛也 亦及之也 玉川の也 土之也

三乃之也山玉之也 此乃之也 亦及之也



